



保護者各位

平成 30 年 7 月 27 日(金)

1 学期終業式校長講話

「可能性は無限大」

校長 長 田 芳子

鈴蘭祭が終わってから、全国的に命の危険を感じる猛暑が続き、気象庁では「災害」と判断をしました。校内でも熱中症の心配もあり、様々な対応をして頂きました。例年なら朝夕は涼しく感じるこの佐久の地域も寝苦しい日々で、生徒のみんなも疲れがピークになっていると思います。無理はしないでください。状況に応じた水分、塩分補給を忘れずに行いましょう。

さて、1 学期、4 月からの 4 カ月はどうだったでしょうか。

始業式では、高校時代に「必死で取組んだ、頑張った、熱く燃えた」と感じられる体験を積み重ねて欲しいと伝えました。3 年生は、高校生活の集大成を迎えています。高校最後の鈴蘭祭も終わり、高校最後の大会が終わった人も多くいます。これから次々に高校最後の〇〇があります。悔いなくやり遂げて欲しいと思います。苦しいけれど、逃げないでください。自分の可能性は無限であると信じてください。道を開く言葉を一つ紹介します。

限界を決めるのは心だ。

心が何かをやれると思えば、自分がそれを 100%信じてことができれば、それは必ず実現する。

(アーノルド・シュワルツェネッガー (映画俳優・政治家))

1・2 年生も、高校の 3 年間は過ぎてしまえば、あっという間です。大切に時間を過ごしてください。あっという間と言いましたが、ある NHK のテレビ番組で、時間の感覚についてやっていました。若い人 (19 歳くらいまで) ほど、日常の記憶が明確で、昨日のことをしっかり覚えていて、時間を長く感じるができる。その反面、年齢を重ねるほど記憶が曖昧で時間を短く感じているのはなぜかとの疑問でした。答えは、若い人ほど、毎日ワクワク、ドキドキするトキメキがあり時間を長く感じるができるという事だそうです。諸説ありますが・・・。

皆さんは、今まさにトキメキやワクワクの中にいます。これからの自分の可能性に希望を持ってワクワクし、毎日を過ごして欲しいと思います。でも、自分の適性や興味や関心が分からなくて悩み、迷っている人もいるでしょう。まずは何かの一つでも真剣に必死に取り組んでみてはどうでしょう。何もしないでボーっとしているままでは、何の変化も起こりません。自ら動くこと、考えること、行動してください。私は、「南校生 起立！」と号令をかけたいです。

いよいよ、8 月 7 日～11 日まで「2018 信州総文祭」が開幕します。文化部のインターハイです。全国の高校生が長野に集います。本校の生徒の皆さんも、実行委員、サポーターなどとして関わります。応援をお願いします。

夏休み中、「命を大切に」、事故なく健康で皆さんが過ごせるよう願っています。

8 月 22 日 (水) の始業式には元気な姿で登校してきてください。